

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2672000110
法人名	株式会社うえもり
事業所名	グループホームふれあい
所在地	京都府与謝郡与謝野町字明石652-1 (電話) 0772-44-1010

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階		
訪問調査日	平成20年7月8日	評価確定日	平成20年9月8日

【情報提供票より】(平成20年 6月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 10年 1月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	14 人 常勤 9人, 非常勤 5人, 常勤換算 9人

(2) 建物概要

建物構造	木造作り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円	
敷 金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,600 円			

(4) 利用者の概要(6月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	4 名	要介護2	2 名		
要介護3	8 名	要介護4	2 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87.6 歳	最低	77 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	伊藤内科医院
---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

野田川駅の南に重なる田園地帯にある民家を改修されたグループホームで、近くには畑もあり、風情豊かな立地です。利用者と職員の共同作業により収穫された旬の野菜が食卓にもあがり、職員と利用者が普通の暮らしを一緒に楽しんでいます。「生活がそのものリハビリ」という考えに基づき、利用者が生き活きと暮らせる家庭の匂いのする介護を理念に、どこまで家族に近付けるかを日々実践されています。利用者が役割を担えるように働きかけ、共同生活の中でお互いの力が発揮され、自立の継続を見据えた支援を行っています。職員も介護をしているという思いではなく、自然と家族の一員として一緒に生活しています。医療面でも協力医療機関と連携も取れており、近隣の看護師との特別契約による対応もあり充実しています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価改善を検討し、職員に伝え話し合い、改善に向けて積極的に取り組んでいます。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	ベテラン職員と新人職員がそれぞれの視点から自己評価票をもとに評価し、正副管理者でまとめています。全職員が改善に向けての取り組みを行っています。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、家族、区長、民生委員、町福祉課、地域包括、ホーム関係者が出席し開催されています。現場の職員が参加し入居者の報告をすることで、家族もホームの様子を理解し、地域の方々の理解にもつながっています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	変化があった時には素早く家族に連絡を取り、決定事項は必ず家族の意向を基に行っています。毎月のおたよりには利用者の様子が書かれ、希望や不安、意見や意向はないか常時間いかけています。多くの家族の来訪は頻繁で、面談の機会をとらえ意向を聞き取るようにしており、結果を共有しつつ支援に反映させています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	春祭りには、子どもみこしや神楽がホームの前庭に訪れます。また、中・高生の体験学習を受け入れています。保育所とも交流があり、散歩途中の幼児の訪問で利用者は喜ばれています。ホームの夏祭りには、地域の参加もあり交流が深められています。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	普通の暮らしを理念とし、生活そのものがリハビリであり、どこまで家庭に近付けるかを課題にしています。生活の中でお互いの力を発揮しあい先を見据えた支援で、自立の継続を目指しています。地域の中の家庭という考え方から、地域にとけ込んだ活動も行っています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ケア理念を玄関に掲示し職員間で共有しています。家庭生活の延長を大切に考え、支援の指針としています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の春祭りには山車がホームを廻り、子どもみこしや神楽は前庭で踊ります。保育所の子どもが散歩の途中で立ち寄りたり、中・高生の課外事業の受け入れがあります。ホームでは夏祭りに流しそうめんをし、地域にも呼び掛け交流がなされています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解し改善点を見出しケアに繋げています。ベテラン職員と新人職員がそれぞれの視点から自己評価票をもとに評価し、正副管理者でまとめています。全職員で改善に向けての取り組みを行っています。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、入居者の様子やホームの現状、ケアの様子などについて報告を行っています。現場の職員の参加によって、家族にホームでの利用者の様々な様子が伝えられ、家族間での話し合いや交流に繋がっています。		

グループホームふれあい

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の福祉課から運営推進会議への出席があります。管理者が介護保険運営会議委員でもあり、町の状況を把握されています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月請求書と共に利用者の様子なども書き、お便りとして郵送しています。通院や往診時などは電話で連絡し結果の報告をしています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族は比較的頻繁に来訪され、積極的に面談を行い思いや希望を聞き運営に反映させています。また手紙や電話で絶えず「何か希望や不安はないか」を問いかけ意見が出やすいように心掛けています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職を少しでも防げるように親睦会を設け、普段話にくい事も語り合っています。入職後の勤務はすぐにはシフトに入れず、主任や副主任と同じ業務を行い、働きながら学べる環境の下、利用者にも早く馴染めるように配慮しています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は、積極的に職員に参加を勧め、受講しています。内部研修では、その時々テーマについてや、外部研修者からの伝達研修をミニ学習会として月2回の職員会議の中で行っています。また、管理者は一般職員と同じシフトに入り、その時々気づいた点などを一緒に考え、指導しています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	実践者研修の受け入れがあり、交流と学びの機会とらえています。管理者はグループホーム協議会の役員でもあり、見聞や経験を職員に伝えサービスの質の向上に努めています。		

グループホームふれあい

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には家族と納得のいくよう話し合い、早急にサービス利用に繋げています。入居後は出来るだけ寄り添って馴染めるように支援しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家庭生活として、利用者と職員と一緒に献立を考え、買い物に行ったり畑で収穫しています。食事の準備は出来る人やりたい人が自然に手を動かし、ともに作った食事をみんなで楽しく食べ、準備片づけもできる人が行っています。掃除やその他の作業についても、家族の一員として、それぞれが出来ることの役割を担い、共に支えあいながら生活されています。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を利用して思いを収集しています。分からないときには積極的に「本人に直接聞く」ことを大事にしつつ、意思疎通の困難な利用者にはしぐさや行動で思いをくみ取っています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式をもとに利用者の思いや家族の意向を聞き、ケアプランに反映させています。毎日のミーティングで利用者の様子を共有し、課題にそって利用者の支援しています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	家族にはケアプランにそって話し合うようにしています。基本的には3か月に1度の見直しを行っていますが、状況に変化のない人は6か月に一度となっています。日々のミーティングで利用者の状況は常に話し合っています。		

グループホームふれあい

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の要望には出来る限り応じ、受診の対応や理美容院への送迎などを行っています。家族に依頼することを少なくし、出来るだけホームでの対応で利用者の要望に応えています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関は月2回の往診があり、それ以外にも皮膚科や外科も電話で往診に対応しています。訪問看護とは独自契約で協力体制にあり、適切な医療体制を利用者に提供できています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族には入居時にホームの方針を伝えています。状況が悪化してきたときには、意見の収集を図り具体的な話し合いを医師も交えて行っています。職員には、情報はすべて共有し、方針を伝えています。また、職員には看取り以前に、死がだれにでもあり隣り合わせであることを伝え、自然と受け入れることができるよう日々研修などを通じて話しをしています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	穏やかな声かけでゆったりと感じられ、ホームの目指す普通の暮らしの中からはプライバシーを損ねる雰囲気が出ないように心掛けています。日常的には管理者、職員は十分配慮するように努めています。個人記録は鍵のかかるロッカーに保管しています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の流れに沿って、利用者のペースで生活がなされています。皆が助け合っの生活という考えのもとに、個人の状況に応じる努力がなされています。		

グループホームふれあい

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑の収穫物や購入する食材をもとに利用者と献立を決め、必要なものはさらに買い出しに行っています。旬の野菜を取り入れ、出来る人は協力しつつ食事の準備が進められています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午後から夜の時間帯で希望に合わせての入浴が可能です。大中小とお風呂がありタイミングや好みに合わせて入浴して頂いています。週2～3回の入浴を支援しています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居時に聞き取った好みや趣味を楽しみとなるよう支援しています。入居されても、引き続き楽しみとして行えるように支援し、一定の管理をおこないますが、晩酌や喫煙にも対応しています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	畑に出かけたり、週2～3度の買い物、散歩など希望者は声をかけ合って出かけています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外は日中の施錠はされていません。「いつでも出かけてください」の声に、自由に出かけられる事が利用者の精神的自立に大きくかわり、利用者同士が声を掛け合う光景もあります。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署立ち会いの防火訓練を年2回行い、2ヶ月に一度自主訓練を行っている。点呼表を作成し非常持ち出し袋が事務所に準備されています。一人体制でどこまでことができるかという疑問を抱えていますが、夜間想定訓練は行えていません。	○	取り組みを課題とされていますが、出来れば実際に夜間想定訓練をされ、何ができ何が出来ないかも含め実践されることを期待します。

グループホームふれあい

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調不良時にはチェックし記録しているが、日常的には概ね把握はしているが記録はしていません。出来るだけ多くの食材を使うことと、1～2日のトータルで考え摂取状況を観察するようにしています。毎年給食施設指導を受け献立や栄養へのアドバイスをもらっています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	古い民家の佇まいが残り、玄関は昔ながらのものです。アットホームな雰囲気がいたるところ見られ、季節の花が飾られ、居室の入り口はや間仕切りは襖で我が家の雰囲気があふれています。利用者はソファーや食堂の椅子に座り食事の用意をしたり掃除をするなど、思い思いに「我が家」のように過ごされています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できるだけ今まで住んでいた住居と雰囲気が変わらないように、鏡台やちゃぶ台など、なじみの物を持ち込んで頂いています。また、多くの居室は畳敷きでふすまがあり、窓や縁側からは畑などが見え、旧家の雰囲気が利用者も気に入っておられます。		